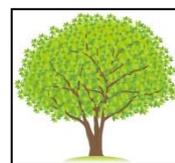


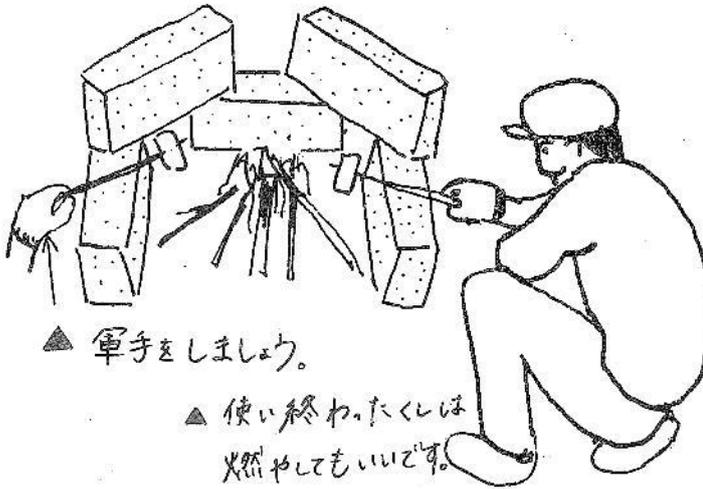
火起こし体験(マシュマロ焼き)



活動場所	実習棟、交流ひろば	自然の家にあるもの	薪(有料)、皮軍手、耐火レンガまたはたき火台、火ばさみ
所要時間	2時間程度	利用者で用意するもの	軍手(ゴムの滑り止めのないもの)、新聞紙、マッチ、うちわ、竹ぐし、マシュマロ
人数	100名程度	活動時の服装	長袖、長ズボン(綿素材のもの)、軍手(ゴムの滑り止めのないもの)、帽子、マスク

「野外炊事は時間がかかるので避けたい。」または「冬は野外炊事ができないが、かまど作りや火おこし体験はさせたい。」という場合にお勧めです。火をつけた後、その火でマシュマロを焼くプログラムです。

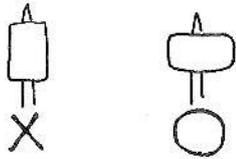
マシュマロ焼き



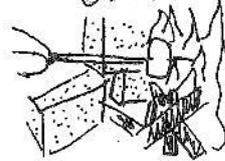
▲ 軍手をしましょう。

▲ 使い終わったくしは
燃やしてもいいです。

★ マシュマロが落ちないように
くしは横からさしましょう。



★ 火の直接当たらない所で
じっくり焼くとおいしいです。



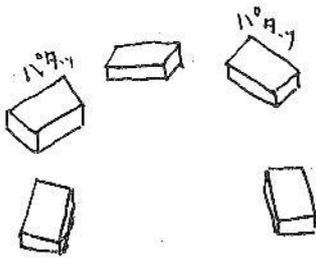
X 火の上で焼くと、
マシュマロが
燃えてしまいます。

おいしいマシュマロは

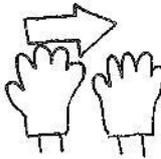


できあがりには、マシュマロが
2倍くらいの大きさに
なります。外はカリッ!
中はフワッ!

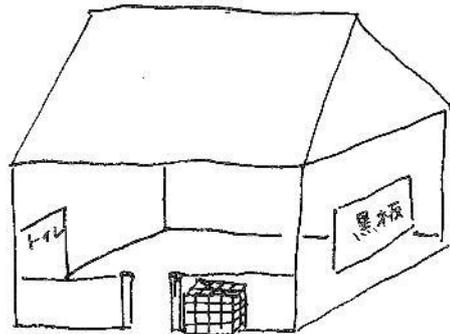
片付け方



▲ レンガは熱いので
倒して、冷まします。



▲ レンガは革手ぶくろ
をつけて運びます。



▲ 縦と横の順番に
積んでいきましょう。

とくに大切なこと

- ① 火を使う学習です。先生や自然の家の職員の説明をしっかりと聞きましょう。
- ② 班員と力を合わせて火を起こしましょう。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・火の起こし方を知り、効率よく火を保つ技術を身につける。また、災害時における火の大切さについてふれる。	総合的な学習	「防災」
・燃焼の仕組みについて、空気の変化に着目して、間伐材の燃え方を多面的に考え、実践することができる。	理科	6年「ものの燃え方」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・ビニール、ナイロン素材の服は火の粉で穴が開くので綿素材の服にする。
- ・軍手は綿100%のものを用意し、ゴムなど引火しやすいものがないものとする。
- ・マッチと竹ぐしは各団体に用意する。
- ・マシュマロは各団体に用意する。

イ) 活動中

- ・薪の束の運搬は、軍手を着用するように指導をする。
- ・マシュマロは火にふれると焦げてしまうので適度に火からはなして熱せる。

ウ) 活動後

- ・使い終わった竹ぐしはかまどで燃やす。
- ・使った道具は元の場所に戻す。
- ・実習棟裏のスコップ、ちりとり、一輪車で、燃えた灰等は、灰捨て場へ運んで水をかける。灰捨て場は実習棟裏手にある（確認しておくこと）。
- ・レンガはしばらく熱いままなので、冷めたことを確認してから指導者の指示で片付けを行う。
- ・レンガには決して水をかけない（熱いレンガに水をかけると割れるため）。
- ・レンガは重いので、気を付けて運ぶように指導する。

3. 安全対策について

--